

前衛芸術の日本展から40年 —フランスからみた日本の前衛—

2026年 **11月15日 日** 14:00–15:30 受付13:30–

先着順（定員150名）・聴講無料（「関西文化の日」につき、コレクション展無料日）

兵庫県立美術館 KOBELCOミュージアムホール

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 〒651-0073 （最寄駅：阪神岩屋駅 / JR灘駅 / 阪急王子公園駅）

講師 **岡部 あおみ** 氏 美術評論家、キュレーター

聞き手 **林 洋子** 当館館長



坂田一男《女と植木鉢》1926年頃

今から40年前の1986年、12月から翌年3月にかけてパリ、ボンピドゥー・センターで「前衛芸術の日本 1910–1970」展が開催されました。ボンピドゥー・センターと国際交流基金の主催により開催された本展は、日本の近現代の芸術創造を国際的な前衛芸術の歴史に照らして系統的に提示する初めての試みで、造形美術を中心に、建築、デザイン、工芸、写真などの多岐にわたる分野から700点を超える作品が出品された大規模な展覧会でした。

「館長といっしょ!」Vol.22では、本展のコミッショナーのひとりとして、展覧会の企画段階から携わられた岡部あおみ氏をお迎えし、同展の企画立案から調査、出品交渉、展示構成から開幕までの準備にまつわるお話や思い出、展覧会の影響や評価、当時のフランスからみた日本の前衛や日本のアートシーンについてなど、広くお話を伺います。



岡部 あおみ 氏（おかべ・あおみ）プロフィール

東京生まれ。国際基督教大学卒業。パリ・ソルボンヌ大学修士課程、国立ルーヴル学院ミューゼオロジーおよび研究論文課程修了。1978年よりボンピドゥー・センターの研修生となり、のちにセンター内のパリ国立近代美術館の特別研究員として研究調査、展覧会のオーガナイズなどに関わる。『前衛芸術の日本 1910-1970』展 コミッショナー（1986-87年）、『国際美術映像ビエンナーレ』審査員（1990年、92年）、帰国後メルシャン軽井沢美術館チーフキュレーターと武蔵野美術大学教授を経て、パリ日本文化会館トランスフィア現代アーティスト・シリーズのアーティストティック・ディレクター、上野「文化の杜」新構想実行委員会国際部ディレクターなどを歴任。手掛けた展覧会は『ジョルジュ・ルース阪神アートプロジェクト』（1995年）、「真鍋大度+石橋素」展（2016年）、「内藤礼」展（2017年）、「米田知子」展（2018年）など。監督作品に『田中敦子、もうひとつの具体』、著書に『ボンピドゥー・センター物語』（1997年）、『アートと女性と映像 グローカル・ウーマン』（2003年）、『アートが知りたい 本音のミューゼオロジー』（編著 2005年）などがある。